

原発いらない！ 再稼働反対！

金曜行動の今までとこれからー北九州からの報告ー

原発なくす蔵（ぞう）の地図でわかる通り、250km 圏内の円を描くとほぼ日本中が覆いつくされます。狭い日本の中での原発の多さは明らかに異常です。安全性より経済性を優先する日本の原発推進の姿も異常です。日本の人口密度の高さを併せ考えると、住民が苛酷事故に遭遇する可能性は世界で最も高いと言えます。

事故がもたらす放射線被害や避難の視点から、原発を中心にした距離を考えることも重要ですが、住居地を中心にした原発環境を考えることも重要です。

北九州市役所本庁舎を中心にして 250 キロ圏内の原発を調べてみました。近い順に、①玄海原発 105km ②上関原発（建設予定）107km ③伊方原発 140km ④川内原発 237km ⑤古里・新古里原発（韓国）216km ⑥月城原発（韓国）241km です。そのうち③④⑤⑥が現在運転中で、①の玄海原発はすでに適合判定がなされ、再稼働の動きが強まっています。

これは只事ではありません。北九州市民の生活を脅かす重大問題です。

北九州で最初に行った大きな集会は、事故の翌年 2012 年の「さよなら原発！ 3.11 北九州集会」でした。広範囲の市民に呼びかけ、実行委員会として取り組みましたが、集会の総括会議を行ったときに実行委員会は解散するけれども今後お互いに情報を交換し、「さよなら原発」の運動を継続できたらよいねということで、「さよなら原発！ 北九州連絡会」ができました。そこで、東京官邸前金曜行動に連帯する行動を起こすことになりました。小倉の大型複合商業施設「リバーウオーク北九州」前で「しゃべりばウオーク」と命名して夕方 6 時から約 1 時間のリレートークを行うことにしました。2012 年 7 月 27 日（金）が 1 回目でした。

最終的に脱原発を実現するのは国民・市民の声であると考えていました。集会に参加できない人にもさまざまな形で語りかけること、市民一人ひとりが原発を自分の問題として考え、その思いを声に出すようになること、そうしたことが問われると思いました。

「しゃべりばウオーク」の場所は繁華街から少し離れており、夕方は買い物客が少なくなる時間帯でもありました。冬になると、人通りが更に少なく、日の暮れも早くなりました。

それでも「継続は力なり」を胸に、殆ど休むことなく続けていきました。みんなで思案する中で、JR 駅前なら夕刻も人通りが多く、夜遅くまで明るいことに気が付きました。2013 年の 4 月からは、九州内で第二の乗降客を数える小倉駅前の屋根のある場所（ペDESTリアンデッキ）で金曜行動を継続することにしました。それを機に参加者も平均 30 人まで増えました。

人通りが多い。マイクで訴える人、チラシを配る人、署名を集める人、脱原発の歌を合唱する人など、ずいぶん活気が出てきました。

「ひょっこりひょうたん島」等の歌詞を「原発いらない〜…」の歌詞に作り替え、踊りながら歌うグループ（NO NUKES 女子部）も現れました。その後、「さよなら原発！北九州集会」の舞台では「金曜行動再現」と共に絶対に欠かせない呼び物として定着しています。

「歌が始まるとみんなが注目する、署名がよく集まる」、これが、とある金曜行動常連の感想です。楽しさも運動継続の大きな要素です。

話しかけてくる人も多くなりました。ときどき知り合いと出会って立ち話をすることもあります。励ましの言葉は嬉しいものです。若い人から多額の寄金を戴いたこともあります。原発反対の意見を長々と語って立ち去る人もいます。中には酔いの勢いを借りて突っかかってくる人もいます。話し合ってもらちが明かないと思われる場合は、一緒に近くのベンチに座って世間話をするなどして落ち着かせます。こんなこともありました。ある日、少し酒が入った初老の人が近づいて来て、南相馬市から東京に避難したこと、東京から北九州まで来て金曜行動を知って嬉しかったことなど、身の上話を始めました。トークを勧めたら遠慮をしながらも自分の生活を奪ってしまった原発は反対だといった趣旨の話を実直に語りました。それ以降連絡を取って、100回目、200回目の金曜行動にも少し酒入りで参加していただくことになりました。

金曜行動はたくさんの人との出会いの場でもあります。どんな人でも心の底から話し合えば原発いらない！

再稼働反対！の意識を共有できると思います。

2014年7月4日の100回目記念の金曜行動はおよそ200人の仲間が参加しました。

2016年6月24日の200回目記念の金曜行動も170人ほどの仲間が参加しました。

後で分かったことですが、宮崎での「原発再稼働反対ウォーク」200回目が奇しくも北九州の金曜行動と同じ6月24日でした。

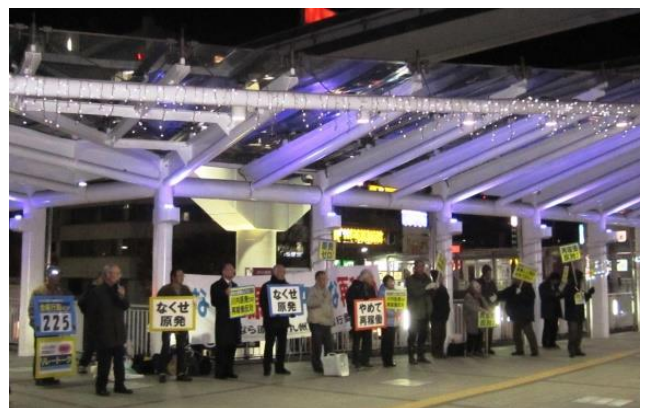
2016年12月16日225回目の金曜行動には、鹿児島、愛媛、福井、東京から応援弁士が駆け付けてくれました。

民意の力で玄海原発の再稼働をくい止めたいものです。



200 回記念金曜行動

写真に写っている殆どの人が参加者



225 回目の金曜行動

(文責 さよなら原発！北九州連絡会 代表世話人 棚次奎介)